大分合同新
ワークシート

年　　組　　氏名

記事をよく読んで、問①～⑤に答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕ネリカ米は何と何を交配して作ったお米ですか。
答え【　　と　　】

〔問②〕ネリカ米にはどのような特徴がありますか。
答え【　　】

〔問③〕人口が増え続けるアフリカでネリカ米はどのような役割を果たしていますか。
答え【　　】

〔問④〕坪井さんはネリカ米の研修会の参加者にどのようなことを期待していますか。
答え【　　】

〔問⑤〕日本では食料の多くを外国からの輸入に頼っています。食糧問題は私たちにとっても身近な問題です。日頃から一人一人がどのようなことに気を付けたり、取り組んだりすれば良いか考えてみましょう。

アフリカの食糧問題 解決助ける作物

ネリカ米 山香町で初収穫

年代物の脱穀機でネリカ米を脱穀。中央左が坪井さん、左後ろが栽培した小野さん＝杵築市山香町小武

【杵築】杵築市山香町小武の農業小野義美さん(76)が自宅近くの耕作放棄地で、アジア稲とアフリカ稲の交配で作ったネリカ米を初めて収穫した。普及に努める国際協力機構（JICA）の稲作上級技術アドバイザー、坪井達史さん(73)＝同町野原＝の活動に賛同。坪井さんを通じて、希望者に種を配布する。

坪井さんは、乾燥した土地で育つ、ネリカ米栽培の世界的な第一人者。2009年にニューズウィーク誌の「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた。現在もアフリカに足を延ばす。

現地の主食はトウモロコシ。ネリカ米は商品作物として農家の生活向上に一役買う。人口が増え続けるアフリカ。未開発地の多い低湿地でも育つため、食糧問題解決の切り札として注目されている。

小野さんは、町内であった坪井さんの研修会に参加。標高250㍍の耕作放棄地1㌶で5月下旬から栽培に挑戦した。今月4日の収穫作業には地域住民、市職員ら10人が参加。坪井さんのアドバイスを受けながら、年代物の脱穀機で、リズミカルにもみを落とした。

収量は50㌔ほど。味はアフリカでは好評だが、日本人の口には合わないとか。カレーやチャーハンに適しているという。小野さんは「田んぼを作らずに畑でできる。水をやらなくても雨水だけで成長しました」と笑顔。坪井さんは「ネリカ米を知ることでアフリカの現状について考えてもらいたい。普及を助ける指導者が出てくればうれしい」と話している。

問い合わせは坪井さん（080・9245・2940）。

（藤内賢治）

現地の現状、考える機会に

大分合同新聞 2023年10月24日（火）朝刊12面

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。